

會 務

第 20 卷 第 10 號 昭和 9 年 10 月

役 員 會

臨時役員會

開催日 昭和 9 年 9 月 4 日

出席者 會長 久保田敬一君

副會長 米元晋一君

前會長 古川阪次郎君 岡野 昇君 中川吉造君 那波光雄君

名井九介君 眞田秀吉君

常議員 池邊稻生君 衣斐清香君 内海清温君 河原直文君

神原信一郎君 鈴木雅次君 永田民也君 野口寅之助君

常議員兼
主計 佐藤利恭君 同幹主事 古川淳三君

決議並に報告事項

決 議

1. 創立 20 周年記念土木學會誌記念號に廣告掲載募集に關する件次の通り決議す。

(イ) 記念講演集及び土木學會史を會誌記念號として發行しこれに全國土木關係業者より廣告の掲載を勧誘すること。

(ロ) 募集方法及び募集先並に收支豫算は原案の通り決定す。

(ハ) 記念號廣告掲載料金は 1 口を 4 分の 1 頁とし金 100 圓を申受くること。

(ニ) 會長並に有志よりの廣告掲載依頼狀其の他は原案の通り決定す。

2. 土木學會誌の一般廣告料規定改正の件は原案の中第 1 案に依り取扱ふことに決定す。

3. 記念祝賀會舉行に當り表彰者詮衡の件次の通り決議す。

(イ) 職員にして 10 年以上勤務したる者とし北村嘉太郎君外 5 名を詮衡決定す。

(ロ) 記念品は懐中時計を贈ることとする。

4. 記念大會に於ける同委員會の決定案諸事項を承認す。

5. 8 月分(8 月 20 日まで)の入退會者を承認す。

6. 土木工學論文抄録に土木關係著書の廣告掲載募集の件は原案の通り決定す。

報 告

7. 故古市男爵記念事業に係る本會選出發起人名を報告す。

8. 維新以前土木史編纂委員に石川縣土木課長杉山宗次郎君を依頼したり。

9. 事務所移轉登記終了せり。

10. 土木工學論文抄録臨時編輯員に内務省より 2 名鐵道省より 2 名採用せり。

11. 關西支部記念事業(土木要材商店録發行の件)打合會議事を報告す。

第 8 回 役 員 會

開催日 昭和 9 年 9 月 17 日

出席者 會長 久保田敬一君

副會長 草 間 偉君
 常議員 池 邊 稻 生君 衣 斐 清 香君 金 森 誠 之君 河 原 直 文君
 神 原 信 一 郎君 永 田 民 也君
 常議員兼 佐 藤 利 恭君 同 主 事 古 川 淳 三君
 主 計
 同編輯長 田 中 豊君

決議並に報告事項

決 議

1. 記念大會前日會長のラヂオ放送講演の件決定せり。
2. 秋季視察旅行會開催の件は 11 月 17 日頃とし場所その他の計畫は理事に一任することとす。
3. 財團法人國民工學院へ會誌寄贈の件は保留することとす。
4. 本會制定の徽章を登録することとす。
5. 全國都市問題會議總會へは今回は不参加のこととす。
6. 20 周年記念に當り表彰者に寄贈する懷中時計は精工舎最高級品とし、服部時計店へ納入を命ずることとす。
7. 入退會の件

赤星時治君外 19 名を會員に、相澤愛亮君外 67 名を准員に、本田光夫君外 5 名を學生員として入會を承認し、
 准員阿部忠作君外 1 名を會員に轉格承認せり。

會員久芳準平君、准員鈴木誠二君は死亡の届あり。

報 告

8. 記念號の廣告募集に就き關西支部管内及び愛知縣、静岡縣下に於ける狀況を報告す。

編 輯 委 員 會

第 9 回 編 輯 委 員 會

開催日 昭和 9 年 9 月 3 日

出席者 編輯長 田 中 豊君

委 員 青 木 楠 男君 龜 田 素君 永 田 年君 野 口 誠君
 福 田 武 雄君 星 野 茂 樹君 堀 越 一 三君

協 議 事 項

1. 第 20 卷第 8 號所載論說報告に對する討議依頼先を決定す。
2. 第 20 卷第 8 號論說報告、討議、彙報、參考資料に對する謝禮を夫々決定す。
3. 第 20 卷第 10 號登載論文を決定す。
4. 第 20 卷第 11 號登載論文を下記の如く暫定す。

上越線の排雪溝

會員 工學博士、堀 越 一 三

20 周年記念祝賀會準備委員會

第 3 回 委 員 會

開催日 昭和 9 年 9 月 5 日

出席者 委員長 眞田 秀吉君
 副委員長 總務主任 井上 秀二君
 同 (祝賀主任) 茂庭 忠次郎君
 同 (見學主任) 小川 織三君
 委員 衣斐 清香君 池邊 稻生君 内村 三郎君 權島 正義君
 西大條 覺君 田村 與吉君 關 毅君
 會長 久保 田敬一君
 主事 古川 淳三君

協議事項

1. 祝賀會出席人員を約 400 名として準備をすること。
2. 招待者は内閣總理大臣その他約 200 名とす。
3. 祝賀會、講演會、見學會次第書を原案の通り決定せり。
4. 祝賀會その他の徽章を決定せり。
5. 新聞記者招待晚餐會を 10 月 22 日開催することとす。
6. 經費豫算は原案の通り決定せり。
7. 印刷物等は原案の通り決定せり。

見 學 會

第 4 回見學會

見學場所 内閣印刷局瀧野川工場並に理化學研究所
 日 時 昭和 9 年 9 月 29 日
 參加申込者 91 名
 參加者 46 名

午後 1 時東京驛前より遊覽自動車にて内閣印刷局瀧野川工場に到り同工場を見學し午後 2 時 30 分より理化學研究所を見學し午後 3 時 40 分より岩淵橋、川口市を経て 9 號國道に出で同國道を視察し戸田橋を経て午後 5 時 20 分東京驛前に到り解散せり。

土木學會關西支部記事

○昭和 9 年 9 月 12 日午後 5 時 30 分より中央電氣俱樂部に於て第 6 回役員會を開催し支部長 松島寛三郎君外 9 名出席下記事項を協議せり。

協議事項

1. 秋季見學會の件
2. 支部記念事業経過報告
3. 土木工學研究會の件
4. 座談會の件
5. 本部 20 周年記念事業の件

維新以前日本土木史編纂委員會

第 21 回 委 員 會

開催日 昭和 9 年 9 月 20 日

出席者 副委員長 眞 田 秀 吉君 小 川 織 三君
 委 員 江 澤 甚 一君 眞 鳥 健 三 郎君 茂 庭 忠 次 郎君 牧 彦 七君
 久 野 直君 板 井 申 生君 大 河 戸 宗 治君 那 波 光 雄君
 名 井 九 介君 伴 宜君 有 働 良 夫君 樞 木 寛 之君
 幹 事 佐 藤 利 恭君
 囑 託 渡 邊 俊 一君

決 議 事 項

1. 土木史中記載の年號は例へば天正 2 年 (2100) の如く皇紀何年にて記すること。
2. 固有名詞の中判り難きものには假名を附けること、假名は平假名とすること。
3. 土木史中掲載の圖面は學會に送られたし。

灌漑の部に訂正あり次の如し。

第 2 編開墾干拓及埋立溜池灌漑及排水

第 1 章 總説(全國編年體説明)

第 2 章 地方概説(道府縣又郡別編年體説明)

第 3 章 各説(各題目を詳記す)

開 墾	}	
干 拓		名稱
埋 立		事業所在地
溜 池		事業經營者
灌 漑		事業施行類末(計畫設計工事施行方法現狀)
排 水		

そ の 他 の 記 事

○昭和 9 年 9 月 24 日土木學會誌第 20 卷第 9 號發行成規の手續を了し 9 月 25 日これを全會員に配布せり。

○昭和 9 年 9 月 17 日までに於て下記諸君を入會又は轉格の手續を了し名簿に登録せり。

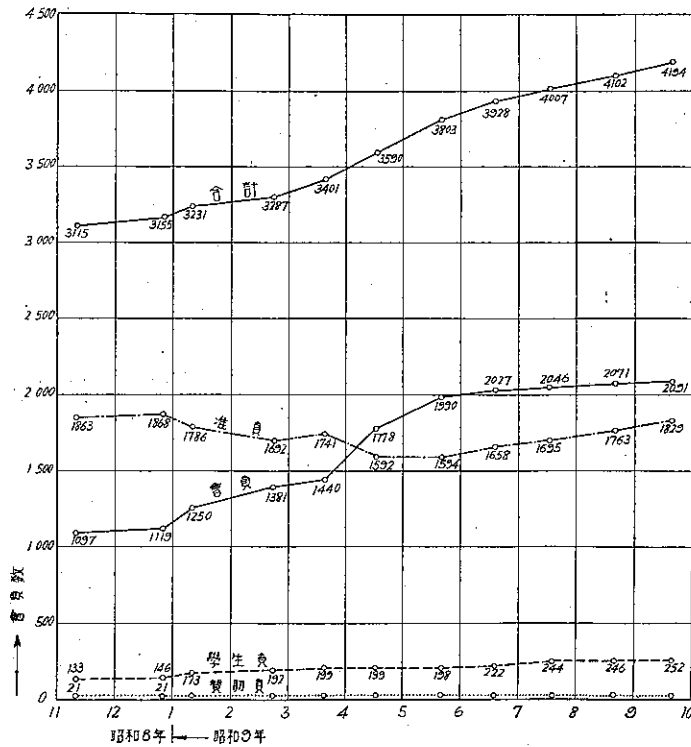
入 會 々 員

赤 星 時 治君	岩 崎 源 治君	熊 野 久 作君	小 堀 豊 作君
駒 田 信 治君	齋 須 丑 藏君	篠 原 昇君	田 中 昌 春君
田 中 彌 七 郎君	竹 内 昇君	千 葉 胤 見君	野 口 義君
原 章 吉君	原 正 章君	安 武 四 三君	山 口 新 造君
山 田 重 治君	勝 山 章君	光 山 三 次君	

入 會 准 員

相 澤 愛 亮君	井 上 勇君	井 代 善 三君	伊 藤 茂 松君
----------	--------	----------	----------

- | | | | |
|--------|-----------|--------|--------|
| 內野政一君 | 潮田輝義君 | 遠藤隆一君 | 小椋正君 |
| 大江直三君 | 太田弘君 | 加藤田敬太君 | 川床一雄君 |
| 久保龍造君 | 窪田壽男君 | 桑名次郎君 | 小林庄五郎君 |
| 米田稔君 | 佐々木喜美藏君 | 佐藤幸藏君 | 齋宮富男君 |
| 櫻田銀藏君 | 敷島保君 | 椎野鷹雄君 | 東海林平吉君 |
| 杉山敬貞君 | 鈴木武夫君 | 瀨浦又藏君 | 關口義一君 |
| 田中次男君 | 名畑健夫君 | 高谷高一君 | 千田金治君 |
| 永島昌庸君 | 野口金太君 | 中田正君 | 中山筆雄君 |
| 兵頭貢君 | 平田幸市君 | 林繁君 | 林豹一郎君 |
| 星要君 | 本田瞭夫君 | 廣井虎吉君 | 福井好三君 |
| 宮城政治郎君 | 富地稔君 | 前田泰吉君 | 松本春男君 |
| 守川義君 | 山口俊次君 | 向井俊一君 | 森正三郎君 |
| 衛藤廣太君 | 大谷勝君 | 石坂直君 | 宇野周三君 |
| 趙南詰君 | 須藤堯君 | 川手清君 | 北村清君 |
| 野崎欣次君 | 原田保君 | 田中太郎君 | 高木實君 |
| 野田良人君 | | 宮内常憲君 | 柳一雄君 |
| | 入 會 學 生 員 | | |
| 本田光夫君 | 三浦春雄君 | 廣松八千人君 | 山本繁雄君 |
| 伊藤正君 | 紺野一郎君 | | |
| | 轉 格 會 員 | | |
| 阿部忠作君 | 谷 喬君 | | |



○昭和9年9月中に於て寄贈又は交換を受けたる雑誌下記の如し。

衛生工業協會誌 第8巻第8號	衛生工業協會	工 政 第173號	工 政 會
工業現勢 第3巻第9號	東京工業大學工業調査部	大阪港勢年報 昭和8年	大阪市港灣部
機械學會誌 第37巻第209號	機 械 學 會	迅速ニツケル鑛金法	日本ニツケル情報局
工 人 8月號	日本工人俱樂部	建築雜誌 第48輯第589號	建 築 學 會
國立公園 第6巻第9號	國立公園協會	日本建築士 第15巻第3號	建 築 士 會
建築と社會	日本建築協會	都市問題 第19巻第3號	東京市政調査會
水道協會雜誌 第16號	水 道 協 會	循環式交通整理調査報告	都市計畫東京地方委員會
土木建築雜誌 第13巻第9號	シ ビ ル 社	風致地區概要	〃
鑄 物 第6巻第9號	日本鑄物協會	會 報 第35巻第9號	帝國鐵道協會
メートル法による規矩術の手引及和風建築設計圖	建 築 學 會	業務研究資料 第22巻第29,30號	鐵道大臣官房研究所
業務研究資料 第22巻第27,28號	鐵道大臣官房研究所	會 務 彙 報 第34號	日本土木建築諸負聯合會
港 灣 第12巻9號	港 灣 協 會	水 道 第9巻第9號	姫 江 勝 巳
工 學 彙 報 第9巻第3號	九州帝大工學部	資 源 第4巻第5號	資 源 局
工 學 No. 241	東京工學社	鐵道技術 10月號	鐵道技術社
セメント界彙報 第318號2冊	日本ポルトランドセメント同業會	土壓及び地盤の支持力 第3巻	コ ロ ナ 社
Excavating No. 8	三井物産機械部	基礎工 第2號	〃
工學院同窓會誌 第36巻9號	工學院同窓會	電氣工學年報 昭和9年版	電 氣 學 會
電氣學會雜誌 第554號	電 氣 學 會	日本鑛業會誌 第50巻第593號	日 本 鑛 業 會

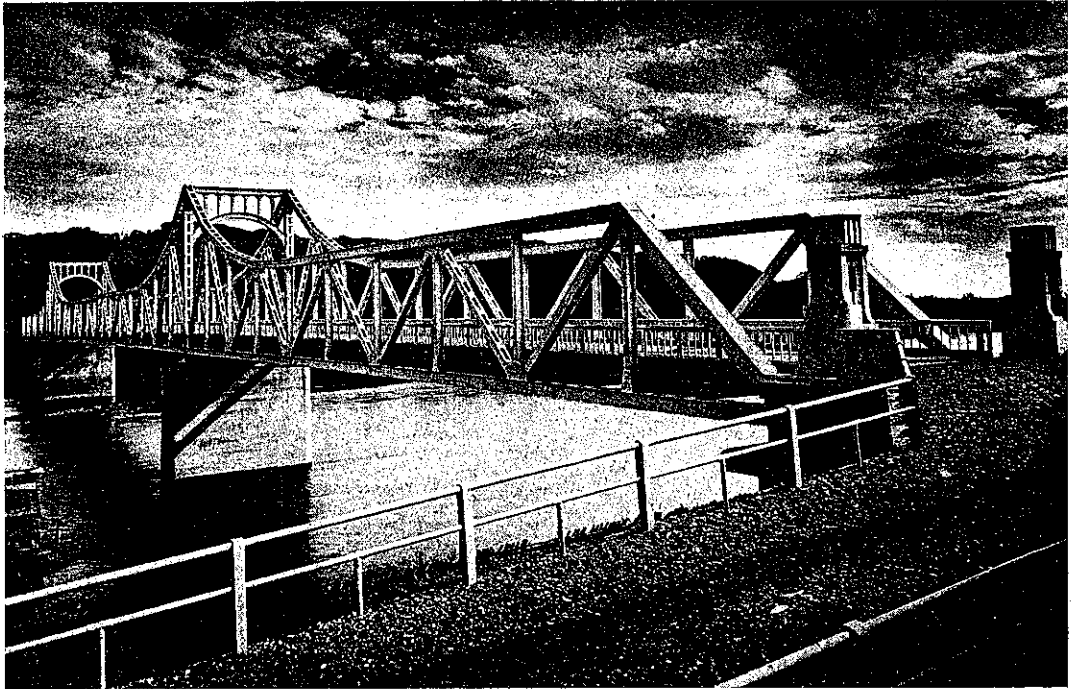
會 員 久芳準平君昭和9年9月5日逝去せられたり。本會は恭しく哀悼の意を表す。

准 員 志賀清君昭和9年9月逝去せられたり。

同 鈴木誠二君昭和9年9月逝去せられたり。

本會は恭しく哀悼の意を表す。

岩手縣珊瑚橋竣工寫眞



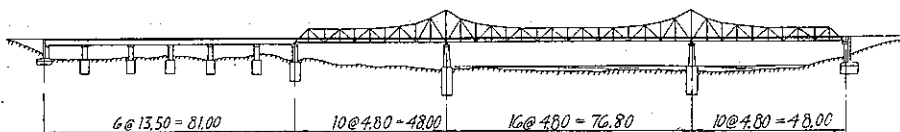
位 置 岩手縣和賀郡黒澤尻町地内北上川架設

上部構 全橋長 251.00 m 有効幅員 5.50 m 主徑間は突桁式鋼結構橋, 側徑間は鐵筋コンクリート丁桁橋にして橋面はアスファルト塊を以て鋪裝す

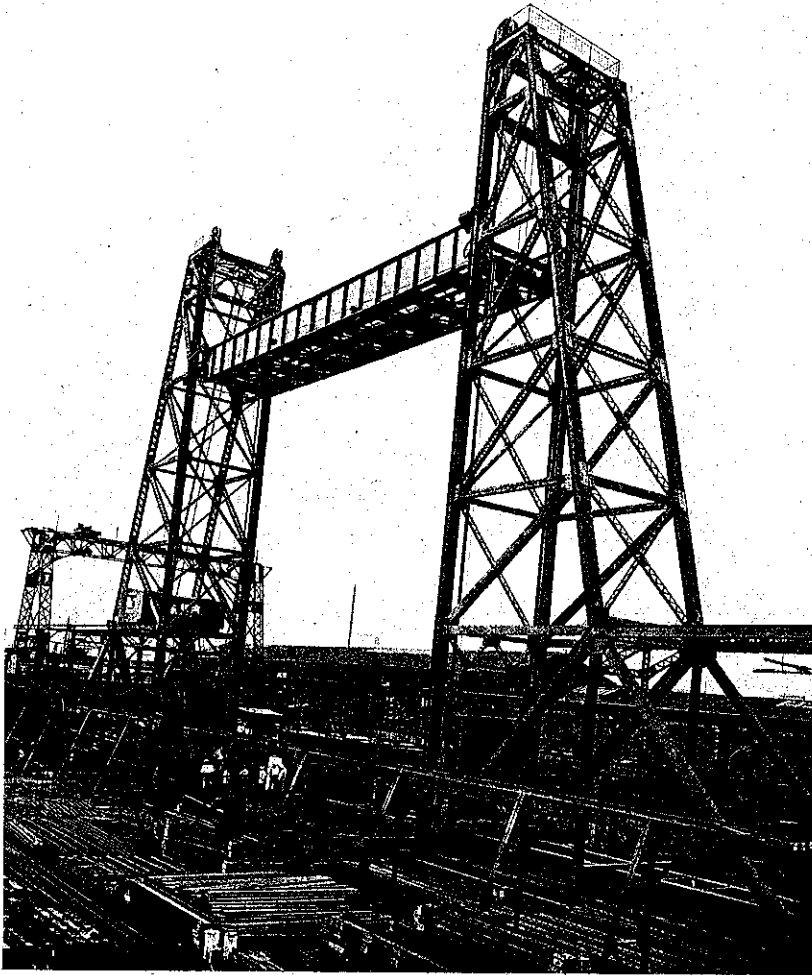
下部構 橋脚の主徑間 2 基は鐵筋コンクリート楕圓形軀體及び基礎井筒を用ひ, 側徑間 5 基は鐵筋コンクリート函型基礎井筒上に軀體を築造し橋臺は鐵筋コンクリート扶壁式である

所要材料 鋼材 350 ton, セメント 3 800 樽

工 期 昭和 7 年 3 月起工 昭和 8 年 10 月竣工



昇開式可動橋試運轉の状況



この昇開式可動橋は鐵道省建設局で施行中の佐賀線筑後川橋梁に架するもので鐵道省大臣官房研究所及び同省工作局機械課で設計し、横河橋梁製作所大阪工場に於て製作したものである。この寫眞は昭和9年9月11日同工場内で假組立をなし試運轉を行つた狀況である。

これは昇開式可動橋として本邦最大（徑間 24 m, 昇程 23 m, 昇降速度 20 m/min, 可動桁重量 48 ton）のもので型式は坂本種芳氏發明の片側捲揚式である。

試運轉の成績は非常に良好であつた。

尙筑後川橋梁下部工事は既に本會誌第 20 卷第 8 號に詳述せられてあり、橋桁及び機械部分の設計に就ては第 20 卷第 12 號に報告せらるゝ筈である。

寄稿に関する注意事項

- (1) 御寄稿は成るべく本會の原稿用紙を用ひ横書きとすること、原稿用紙は御請求次第御送り致します。
 - (2) 御寄稿は止むを得ざる場合の外は成るべく本會の原稿用紙 180 枚（本會誌 30 頁）程度とされたし、若し前記頁數を超過する場合は適宜其の程度に縮少を御願ひすることもあります。
 - (3) 假名は平假名とし、數字はなるべくアラビヤ文字を用ひられたし。
 - (4) 歐字は特に明瞭に認むること。
n と u, u と v, r と v, a と α, r と γ
その他頭字と小字とを判然たらしむる事。
 - (5) 原稿には必ず冒頭に英文表題及び邦文内容梗概並に著者の職名及び勤務所名を添附されたし。
 - (6) 附圖附表に就ては次の各項に御注意ありたし。
 - (イ) 圖面はその儘縮寫し得る様にトレーシング・ペーパー、オイル・ペーパー、トレーシング・クロス等とすること。
 - (ロ) 凡て墨色を用ひインキ類或は彩色を施さざる事。
 - (ハ) 方眼紙は青罫のものを用ひ（黄色、赤色の罫は使用せざる事）縦横線を必要とする部分には豫め墨線にてこれを描き置かれたし。
 - (ニ) 圖表中の文字、數字は特に大きく肉太に書し縮寫したる後明瞭たらしむる事。
 - (ホ) 圖表類は製版の都合上可なり汚損するものと豫め御含み下されたし。
 - (7) 寫眞は特に明瞭なるものを送られたし。
 - (8) 論說報告、彙報、參考資料及び工事寫眞にして掲載せる分には謝禮を呈す。
 - (9) 講演、論說報告の各欄に掲載の分には抜刷 20 部を寄稿者に贈呈するものとし、尙寄稿者の希望に依り賞費にて御要求に應ずる事あるべし。
- 算式その他の記し方大體標準
- (1) 本文、文字間に算式を挿入する場合には次の如く記すこと。 a/b と書き $\frac{a}{b}$ を避けること。 $(a+b)/(c+d)$ と書き $\frac{a+b}{c+d}$ を避けること。
 - (2) 獨立したる列に算式を記す場合は次の如く記すこと。 $\frac{1}{3}x$ と書き $\frac{x}{3}$ を避けること。 $\frac{1}{2}(a+b)$ と書き $\frac{a+b}{2}$ を避けること。 $\frac{a}{b+c/d}$ と書き $\frac{a}{b+c\frac{1}{d}}$ を避けること。
 - (3) 千以上の數字は 53 247 000 の如く 3 つ單位に間隔をあけること。
 - (4) 名數は次の如く記し括弧の中の様を書くことを避けること。
83.4 尺（八丈三尺四寸）、7 吋（七吋）、35 錢（三十五錢）、13.56 圓（十三圓五十六錢）、1~4 時間（一乃至四時間）、88 326 噸（八萬八千三百二十六噸）、1931 年 1 月 1 日（千九百三十一年一月一日）。

新入會者にして既刊會誌希望者に告ぐ

本會々誌は新入會者には入會の月より以降發行に係るものより配布致すべきに付その以前の會誌御希望の場合は一部に付下記金額振替口座東京 16828 番に拂込用紙通信欄にその旨記入請求せられたし

残 部 内 譯

卷	號	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	金額(1部)
														(円)
5		*	*	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1.00
6		—	—	—	—	—	*	—	—	—	—	—	—	1.00
7		—	*	*	*	—	—	—	—	—	—	—	—	1.50
8		*	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2.00
9		*	*	*	—	*	*	—	—	—	—	—	—	2.00
10		—	*	*	*	*	—	—	—	—	—	—	—	2.00
11		—	*	*	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2.00
12		—	*	*	—	*	*	—	—	—	—	—	—	2.00
13		—	*	*	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2.00
14		*	*	*	*	*	*	—	—	—	—	—	—	2.00
15		*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	1.00
16		*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	1.00
17		*	*	*	*	*	*	*	*	—	*	*	*	1.00
18		—	—	*	*	*	*	*	*	*	*	*	—	1.00
19		*	*	*	—	*	*	*	*	*	*	*	*	1.00
20		*	*	*	*	—	*	*	*	*	*	*	*	1.00

東京市内外交通に関する調査書	3.00
震害調査報告書(1,2,3)	18.00
応用力學聯合大會講演集	1.00
鐵筋コンクリート標準示方書	0.50
同上 解 説	1.00

(備考: * は残部有るもの)

本會會員轉居又は旅行の場合の注意

會員の住所の不明なときは會誌の配布を始めその他通信上に差支候に付轉居の際は至急明細に御通知相成度又御旅行等にて御不在となるも會費支辨には差支なき様御配慮相成たし

會 費 納 付 に 付 注 意

本會々費は下記の通りにして本會より發する振替集金に對し是非御支拂願度事若しこの集金書へ15日間中3回の取立金支拂なき場合は最寄郵便局に就き本會振替口座東京 16828 番に(拂込用紙通信欄に會費たる事を記入の事)御拂込相成度尙會費一時納付の御豫定又はその他の都合により支拂なき場合は直に御通知相煩度

朝鮮滿洲の一部及び青島等振替貯金を取扱はざる地に居住せらるゝ會員は納期の翌月末頃迄集金を受けるときは爲替その他の方法に依り直ちに御送金相成たし

會員種格	會費年額	自1月至6月 第1期分3月徴收	自7月至12月 第2期分9月徴收
會 員	金 12 圓	金 6 圓	金 6 圓
准 員	金 9 圓	金 4圓 50 錢	金 4圓 50 錢
學 生 員	金 6 圓	金 3 圓	金 3 圓

新に入會したるものは月割算として入會の翌月集金を發す

會 費 未 納 に 付 注 意

會費は年額を第1期第2期に分割し毎年3月9月に振替貯金郵便として取立方を郵便局に依託の處往々集金郵便に對して放なく支拂を拒絶し尙他方法に依りても送金なき者あれ共斯くては會費滞納者として遺憾ながら定款第2章第14條第1項に依り遂に會誌の配布を停止せらるゝに至るべく又本會に於ても未納金督促の手續一通ならず故に今後右様のことなき様特に御留意の上集金郵便に御拂込相成たし

會 誌 未 着 の 場 合 の 注 意

會誌は毎月25日(印刷又は原稿等の都合に依り遅延する事あり)に發行し漏なく配布すべきに付未着の場合には一應本會に御照會相成たし從來往々發行後數ヶ月經過して照會せらるゝ向あるも斯くて殘部皆無となり遺憾ながら配布は不可能のことあるべきに付御留意相成たし

雜誌閱覽に就ての會告

別記の寄贈並に交換雜誌は本會事務所に備付置候間御希望の向は
下記時間内御隨意に御閱覽相成度候。

閱 覽 時 間

日曜日及祭日休、土曜日自午前9時至午後4時、其他自午前9時至午後8時。
但し役員會、委員會等開催の日は御斷り致すこと有之哉も計られず候間豫め御承知置被
下度候。

廣 告 料

普通廣告 1回1頁 35圓。 1回半頁 20圓

指定廣告	裏表紙3面對向 及廣告初頁	1回1頁 40圓
	裏表紙3面	1回1頁 70圓
	色アート	1回1頁 60圓

- 指定廣告は凡て1箇年繼續申込のものに限り取扱ふものとす
- 會員自身の廣告に對して總て上記料金の割引とす
- 同一廣告の連續掲載申込に對しては1年4回以上1割引とす
- 廣告に寫眞版又は木版等を挿入する場合は之に要する實費を別に申受くるものとす

DOBOKU-GAKKWAISHI.

(JOURNAL OF THE CIVIL ENGINEERING SOCIETY.)

VOL. XX, NO. 10, OCTOBER, 1934.

CONTENTS.

	Page
Proceedings of the Society.	133
Papers.	
Steel Weight of Highway Simple Truss Bridges. <i>By Shichiro Miura, Dr. Eng., Member.</i>	1127
River Discharge Formula. <i>By Harutomi Tsutsuki, C. E., Member.</i>	1131
On the Flood Damages in Hokuriku District. <i>By Masayoshi Tominaga, C. E., Member.</i>	1175
On the Buckling of Rails. <i>By Ichizo Horikoshi, Dr. Eng., Member.</i>	1187
Theory of the Forced Vibration of a Bridge caused by the Passage of a Automobile. <i>By Kyutaro Ozawa, C. E., Member.</i>	1229
Discussions.	1235
Notes on Matters of Interest.	1239
Patent News.	1251
Abstracts of Selected Articles.	1255

OFFICE

No. 6, 3-CHOME, MARUNOUCHI, KOJIMACHI-KU, TOKYO.

會 告

日 歸 り 秋 季 視 察 旅 行 通 知 (雨天中止)

- (1) 見學場所 富士五湖廻り 國立公園箱根の探勝
 - (2) 日 時 昭和 9 年 11 月 18 日 (日曜日)
 - (3) 集 合 同日午前 7 時 30 分 東京中央郵便局前集合
 - (4) 行 程 富士箱根遊覽自動車に分乗の上正 8 時出發, 甲州街道猿橋, 大月等を経て, 正午河口湖に至り晝食休憩, 午後 1 時出發, 山中湖箱根を経て 4 時 30 分塔ノ澤着, 環翠樓にて懇親會を催し, 7 時過ぎ同所發遊覽自動車にて國道を走り歸路につく。
 - (5) 解 散 午後 10 時東京中央郵便局前解散
 - (6) 會 費 11 圓 (御申込後適時に頂戴致します)
- 參加希望の方は 11 月 11 日 までに御申込み下さい
- 參加會員は土木學會徽章を御佩用願ひます (御佩用なき方は 1 個 50 錢にて差上げます)

第 21 回 視 察 旅 行 行 程 略 圖

